

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・感染症の影響により不況である。
- ・顧客の在庫過多が続いており、受注が低下傾向である。
- ・機械受注の回復はまだみられない。
- ・受注回復にはまだ時間がかかるとみている。

【売上高】

- ・売上高は前年同期比30%減少した。
- ・産業機械、医療器具関連の売上げが落ち込んでいる。

【品目別の状況】

- ・半導体製造装置関連も減少傾向になってきている。
- ・半導体製造装置関連の売上げは維持した。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はあまり変わらない。
- ・鋼材の価格が前年同期比で下がった。

【その他諸経費】

- ・夏季賞与が前年比25%減少した。
- ・受注減少の影響で残業代が減少した。
- ・旅費交通費が減少した。

【採算性】

- ・受注減少等により採算性が前年同月比95%減少した。
- ・生産能力に対し、受注及び生産が大幅に下回っており、採算性は悪化した。

【設備投資】

- ・工作機械を1台新規導入した。
- ・既存設備の更新投資を実施した。
- ・受注が減少しており来期の設備導入は見送る方針。

【今後の見通し】

- ・産業用機械等の受注回復時期は来春以降とみている。
- ・顧客の在庫調整も進んできており、少額であるが受注が戻るとみている。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・5月、6月が底で、7月以降は回復傾向にある。
- ・自動車メーカーからの組立受注が減少しており不況である。

【売上高】

- ・売上高が前年同月比20～30%減少した。
- ・売上高が減少した。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・受注単価が下がった。

【原材料価格】

- ・原材料価格はあまり変わらない。

【その他の諸費用】

- ・休業や助成金により人件費が減少した。
- ・経費削減活動により諸経費が減少した。

【採算性】

- ・採算性は悪くなった。
- ・売上減少ながら人件費の減少等により採算性が良くなった。

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった。
- ・今後の設備投資も老朽設備の更新に限られる。

【今後の見通し】

- ・景況感の良い方向に向かうとみている。
- ・感染症拡大時に在庫を絞った反動で、今後は在庫の積み増しが見込まれる。
- ・良い方向に向かうが、売上高は前年同月比で減少するとみている。

(3) 電気機械器具**【景況感】**

- ・景況感は普通である。
- ・景況感は不況である。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比で増加した。
- ・売上高は前年同月比で減少した。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。

【その他の諸費用】

- ・人件費が前年同期比で減少した。
- ・費用はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・売上げが増加した分採算性が良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・先行きは悪い方向に向かい、売上げも減少するとみている。
- ・見通しはどちらともいえない。

(4) 金属製品**【景況感】**

- ・不況である。
- ・下請け業者の廃業が発生、今後が増えるかもしれない。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・売上高は前年同期比で増加した。

【品目別の状況】

- ・半導体分野の需要もあり景況感は普通である。
- ・半導体関連の状況は、年内は良好である。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・受注減少により競争が激化しており、受注単価は低下した。

【原材料価格】

- ・原材料価格が下がった。
- ・原材料価格はあまり変わらなかった。

【その他の諸費用】

- ・生産能力確保のために人件費が上昇した。
- ・ほとんど変わらない。

【採算性】

- ・受注が減少しており採算性は悪化した。
- ・売上増加の影響で採算性は向上した。

【設備投資】

- ・実施していない。
- ・老朽施設の修理を行った。

【今後の見通し】

- ・悪い方向に向かうとみている。
- ・感染症の動向次第でありどちらとも言えない。

(5) プラスチック製品**【景況感】**

- ・景況感は不況であり、休業している業者もある。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・売上高は前年同期比で増加した。

【受注単価】

- ・受注単価は変わっていない。
- ・受注単価は上がった。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わっていない。
- ・原材料価格は下がった。

【人件費】

- ・期末手当の支給により人件費は増加した。
- ・人件費は減少した。

【採算性】

- ・人件費や原材料費の減少が寄与し、採算性が良くなった。
- ・売上高が増加した分採算性が良くなった。

【設備投資】

- ・加工機械や測定器を導入した。
- ・実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・今後の見通しはどちらともいえないが、売上げは減少するとみている。
- ・経費の削減により採算性が良くなるとみている。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・観光需要向けの業者は感染症の影響を大きく受けている。
- ・感染症が長引くことで廃業が増える可能性がある。
- ・夏物商品は天候の影響を受けやすく、7月は天候不順でマイナスの影響が大きかった。

【景況感】

- ・感染症の影響により売上げが落ち込んでいる。
- ・食品スーパー向け商品等は巣籠もり需要があったものの、その需要も収まってきた。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は前同期比75～80%となった。
- ・売上高は増加した。

【受注単価】

- ・受注単価はあまり変わらなかった。

【原材料価格】

- ・7月に小麦粉の価格が上がった。
- ・原材料費はあまり変わらない。

【人件費】

- ・人件費はほとんど変わらなかった。
- ・残業代が減少した。

【採算性】

- ・売上高が増加しており、前年同期比で採算性が向上した。
- ・採算性はあまり変わらなかった。

【設備投資】

- ・生産性向上を目的（手作業の工程を機械化）とした設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・感染症の影響もあり、先行きはどちらともいえない。
- ・中食向けは生産量が増加しており、良い方向に向かうとみている。

（7） 銑鉄鋳物**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・休業している業者も増えている。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・売上高は横ばいである。

【受注単価】

- ・ほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・特に変化はない。

【人件費】

- ・ほとんど変わらない。
- ・人件費は増加した。

【設備投資】

- ・設備投資は行わなかった。
- ・設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・悪い方向に向かうとみている。
- ・良い方向に向かうとみている。
- ・今後の見通しはどちらとも言えない。

（8） 印刷業**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・業界内のほとんどの会社が減収減益となっている。
- ・4月以降受注が減少しており、未だに回復していない。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比50～60%まで減少した。
- ・売上高は減少した。

【受注単価】

- ・現状は受注単価に変化はなかったが、今後受注額の調整があるかもしれない。
- ・一部下がったものもあるが、全体的にはほとんど変わらない。
- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・値上げ要求をしてきたインキメーカーがある。
- ・原材料価格はあまり変わらない。

【採算性】

- ・受注が減少しており、人件費や家賃の負担が重くなっている。
- ・採算性は悪化している。

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・今後は悪い方向に向かうとみている。
- ・若干受注の引合いが増えてきているが、先行きはどちらとも言えない。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・4～5月に実施した休業の反動で6月以降来店客数が増加している。
- ・地方、郊外店は特に厳しい状況が続いており、景況感是不況である。

【売上高】

- ・来店客数が回復傾向であり、売上高は前年同期比微減にとどまった。
- ・都内への外出や旅行の自粛により、地元の需要を取り込むことが出来ている。
- ・衣料品は、外出や会合の減少でフォーマルな紳士服や婦人服は不調であるが、一方で巣籠もり需要の増加で子供服やリビング関連の需要は伸びた。
- ・お盆の外出自粛等により巣籠もり需要が旺盛であり、食料品の売上げは好調であった。
- ・宝飾品等の高額品は回復基調にある。

【諸経費】

- ・人件費は自然減で減少している。
- ・広告の中止により宣伝広告費を削減した。

【採算性】

- ・売上げの減少が続いており、採算性は悪化している。

【今後の見通し】

- ・好転の要素はなく、今後も悪い方向に向かうとみている。
- ・30～40代の顧客層が増加傾向である。

(2) スーパー

【景況感】

- ・食品スーパーは巣籠もり需要の取り込みで好調を維持している。
- ・衣料品等を取り扱う総合スーパーは、外出自粛等の影響もあり不況が続いている。

【売上高】

- ・来店客数及び客単価が上昇しており、売上高は前年同期比約10%程度上昇した。
- ・客単価は上昇したものの、来店客数が減少し、売上高は前年比微増にとどまった。
- ・青果は天候不順の影響で単価が上昇、商品の確保が課題であった。
- ・精肉は内食需要が高まり全般的に相場が上がった。
- ・梅雨明け以降は猛暑となった影響でペットボトル飲料の販売が好調であった。
- ・惣菜の売上げも回復し、前年同期比105%程度に増加した。
- ・衣料品は外出自粛により需要が減少しており、厳しい状況が続いている。

【諸費用】

- ・人件費は増加したが販売促進費が減少しており、全体的には費用は減少した。
- ・諸経費はあまり変わらなかった。

【採算性】

- ・売上増加と経費の削減により採算性は良くなった。
- ・採算性はあまり変わらなかった。
- ・採算性は悪化した。

【今後の見通し】

- ・売上げの回復傾向は続くともみているが、感染症の状況によるところもありどちらとも言えない。
- ・今後も悪い方向に向かうともみている、売上高も採算性も悪くなるともみている。
- ・来年度、価格表示が総額表示に統一されることがあり、その変更作業等で収益を圧迫される業者が増えるともみている。

(3) 商店街

【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・感染症の影響で不況であり、休業や廃業が増加している。

【来街者】

- ・来街者は減少している。
- ・催事が開催できないため人の動きが制限されており、活気が失われている。

【個店の状況】

- ・各店とも厳しい状況である。
- ・飲食店で廃業があった。
- ・飲食店は厳しい状況が続いている。

【商店街としての取組】

- ・まだイベントを開催できる状況にはなっていない。
- ・夏のイベントは開催を見送った。
- ・感染症対策イベントを開催した。

【今後の見通し】

- ・今後も悪い方向に向かうともみている。
- ・営業時間の短縮等で益々厳しい状況が続くとみている。

3 情報サービス業

【景況感】

- ・IT投資は大企業を中心に堅調であるが、中小企業はコロナ禍の状況では設備投資を抑制しており、全体的な景況感は普通である。
- ・受注は増加傾向であるが、前四半期の反動需要とみられ、好況とまでは言えない状況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・公的需要は比較的好調であるが、一般法人の需要は厳しい状況にある。
- ・前四半期からは売上増加傾向であるが、前年同期比では売上げは減少している。

【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く案件ごとに適正な価格設定をしている。

【採算性】

- ・感染症対策費用が増加したものの、接待交際費や交通費が減少したため、全体的な採算性は変わらなかった。
- ・売上げの減少や人件費の増加により採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・社内ソフトウェアのバージョンアップを実施した。
- ・老朽設備の更新投資を実施した。
- ・事業拡大のための投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・感染状況の動向によるが、現時点では大きな落ち込みはないとみている。
- ・緊急事態宣言による需要減の反動で今後の受注は増加見込みである。
- ・今後の見通しはどちらとも言えない。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・感染症の影響を大きく受けている。
- ・廃業や休業の話題が増えている。
- ・従業員数の見直し等が必要となり、派遣社員の契約更新の見送り等も検討されている。

【景況感】

- ・感染症の影響を大きく受けており、厳しい状況が続いている。

【受注高】

- ・前年同期比90%以上減少している。

【受注価格】

- ・少ない需要の取り合いで受注単価は低下している。

【採算性】

- ・コスト削減に努めているものの、受注の大幅減少と受注単価の低下もあり、採算性は悪化している。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・感染症の動向によるが、現状が底だとみている。
- ・10～12月は旅行需要のピークであるが、まだ具体的な動きは出てきていない。

5 建設業

【業界の動向】

- ・県南地域では首都圏に近いわりに、東京都内等に比べると不動産価格が低いことや、テレワークの増加等もあり、3,000万円前後の建売新築物件の需要が増加している。
- ・廃業や休業はあまり増えていない。

【景況感】

- ・景況感は前四半期よりも良くなっている。
- ・景況感は普通である。

【受注高】

- ・建売新築物件の販売が好調であり、売上高は前年同期比30%程度増加した。
- ・受注高は前四半期より増加したが、前年同期比は横ばいであった。
- ・受注高は増加した。

【受注価格】

- ・受注価格はあまり変わらない。

【資材価格】

- ・鋼材価格は前年同期比で下がった。
- ・資材価格はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・採算性はあまり変わらない。
- ・受注高が増加したことから採算性も上がった。
- ・感染症対策としてオフィスを分散することとなり、新たに賃借したオフィスの賃料負担増もあり、採算性は悪化した。

【今後の見通し】

- ・感染症の動向次第であり、今後の見通しはどちらとも言えない。